



大分県における地域・職域連携の推進



大分県福祉保健部 藤内 修二

大分県における健康づくり事業の体系

1 健康寿命延伸県民運動推進事業

健康寿命日本一おおいた創造会議や県民大会の開催，健康寿命延伸推進月間(10月)，おうえん企業との連携

健康寿命の延伸を阻む生活習慣病の予防



塩分摂取が多く，野菜摂取が少ない

・男女とも、野菜摂取量が不足

【男性】279.6g 【女性】293.2g

特に，若い世代で不足！

・塩分摂取も目標を上回る

【男性】10.4g 【女性】8.8g



働く世代における健康づくり

・50歳を過ぎると生活習慣病の受療率が急増

35～44歳 45～54歳

受療率 150 → 521 3.5倍！
→ 健康寿命を縮めることになっていた

・働く世代へのアプローチが不十分

職域における健康支援リソースの不足

歩数の不足

・男女とも、歩数「1,500歩/日」不足

男性 7,599歩 (目標 9,000歩)

女性 6,954歩 (目標 8,500歩)



2 「食」環境の整備

(1)「まず野菜、もっと野菜」プロジェクト事業

野菜摂取促進に向け、生産・流通・販売等関係者による協議会の設置

若い世代の健康無関心層が野菜を食べたくなる仕掛け

野菜～野菜～野菜～♪

(2)「うま塩」プロジェクトの推進

旨味成分を上手く使った美味しい減塩レシピの普及

(3) 外食・中食における協力店の拡大

野菜たっぷりや「うま塩」メニュー提供店の登録と紹介



3 地域・職域連携の推進

(1)「健康経営」事業の登録と認定制度の推進

29年度末 1,200社 → 2,000社(2020年度末)をめざす

(2) 健康経営推進員の養成研修等事業

養成研修会の開催、推進員による登録勧奨

(3) 健康経営セミナー等，質の向上支援事業

健康経営の実践方法・雇用の多様化に対応するセミナー



4 健康ポイントの付与による健康づくりの推進

(1) 健康アプリ「おおいた歩得(あるとっく)」の開発と運営

アプリの本格実施(県内全域)、アプリ利用者拡大への対応

(2)「私もおおいた歩得(あるとっく)」クロスメディア戦略事業

テレビ番組・CM、ネット、おうえん企業等での情報発信



大分県における地域・職域連携の経過（1）

H18

H19

H20

H21

H22

H23

H24

H25

県の
協議会

保険者協議会
市町村保健師代表
労働局, 産業保健推進センター
社会保険事務局 → **協会けんぽ**
保健事業団, 県医師会
商工会議所連合会
地域成人病健診センター
健康保険組合代表

年1回の開催

課題の共有に終わり,
具体的なアクションに
はつながらず, 参加者
から, 不満の声が...

協会けんぽ
から医療費
健診データ
分析結果の
提供

↑
課題解決のための方向性
を共有できていなかった

二次医療圏
の協議会

全保健所で開催

保健所, 市町村担当課
労働基準監督署
地域産業保健センター
郡市医師会
社会保険事務所 → **協会けんぽ**
商工会議所・商工会
健診センター
健康保険組合代表

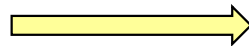
年1回の開催

事業所を対象に
ニーズ調査を行う
保健所も

協会けんぽ
から医療費
健診データ
分析結果の
提供

健康保険委員がいる
地域の5~10事業所
が参加して具体的な
議論をする保健所も

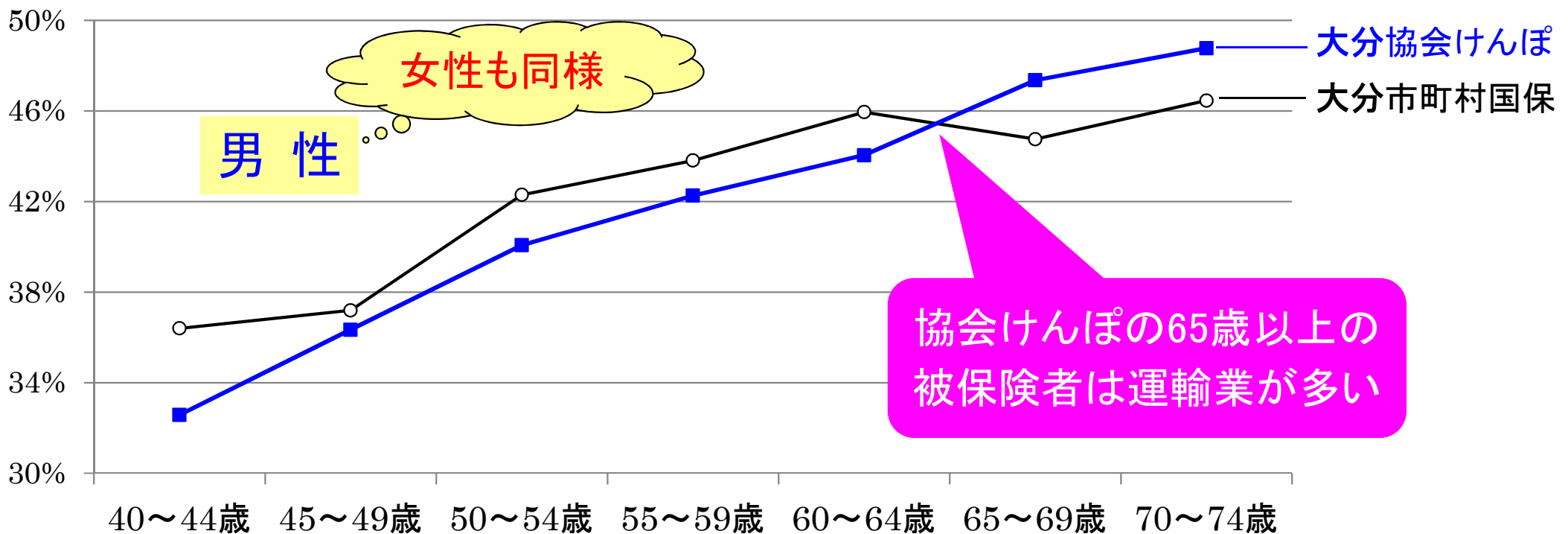
↓
健康保険
委員任命



協会けんぽからのデータ提供で分かったこと

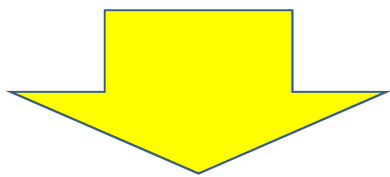
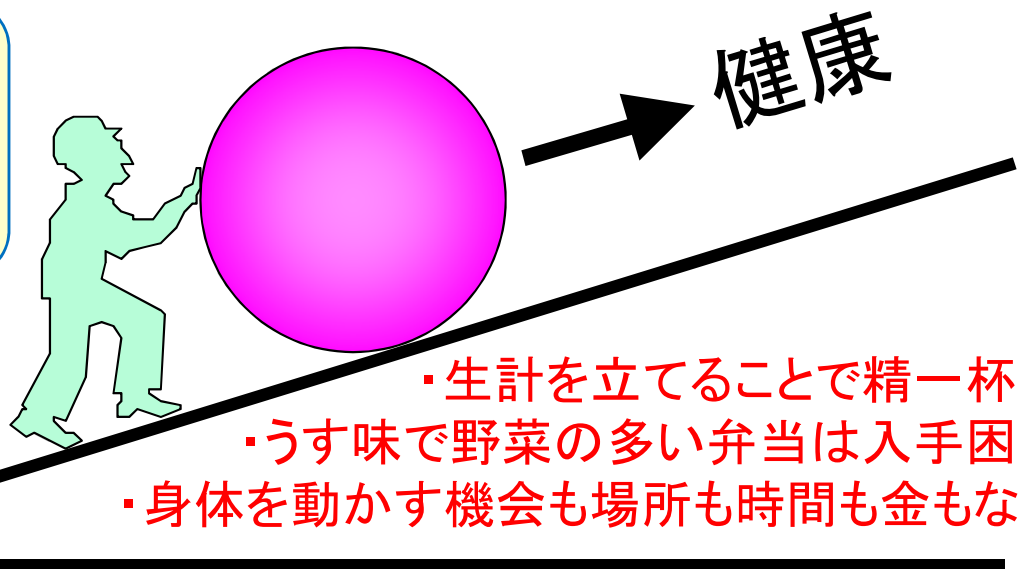
- 協会けんぽのレセプト分析による受療状況は、国保と同様に高血圧、糖尿病、高脂血症などの循環器疾患の受療率が高かった。
- 協会けんぽの従業員の住所地別分析では、国保でも糖尿病が多い自治体から通う従業員において、糖尿病の受療率は高かった。
- メタボ該当者＋予備群の割合は、65歳を境に、協会けんぽと国保で逆転(女性も同様で、全国集計でも同じ現象を確認)。

メタボ該当者＋予備群の割合(平成23年度特定健診)

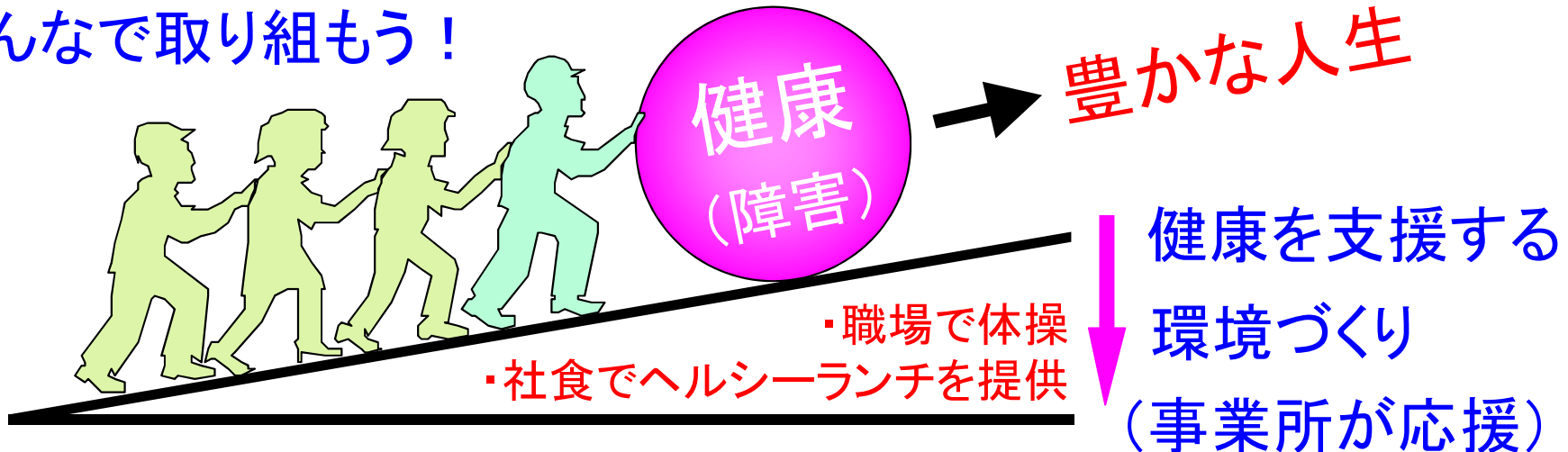


働く世代の健康づくりは、容易ではない！

塩分マイナス3g
野菜 350g 摂取
歩数プラス1,500歩



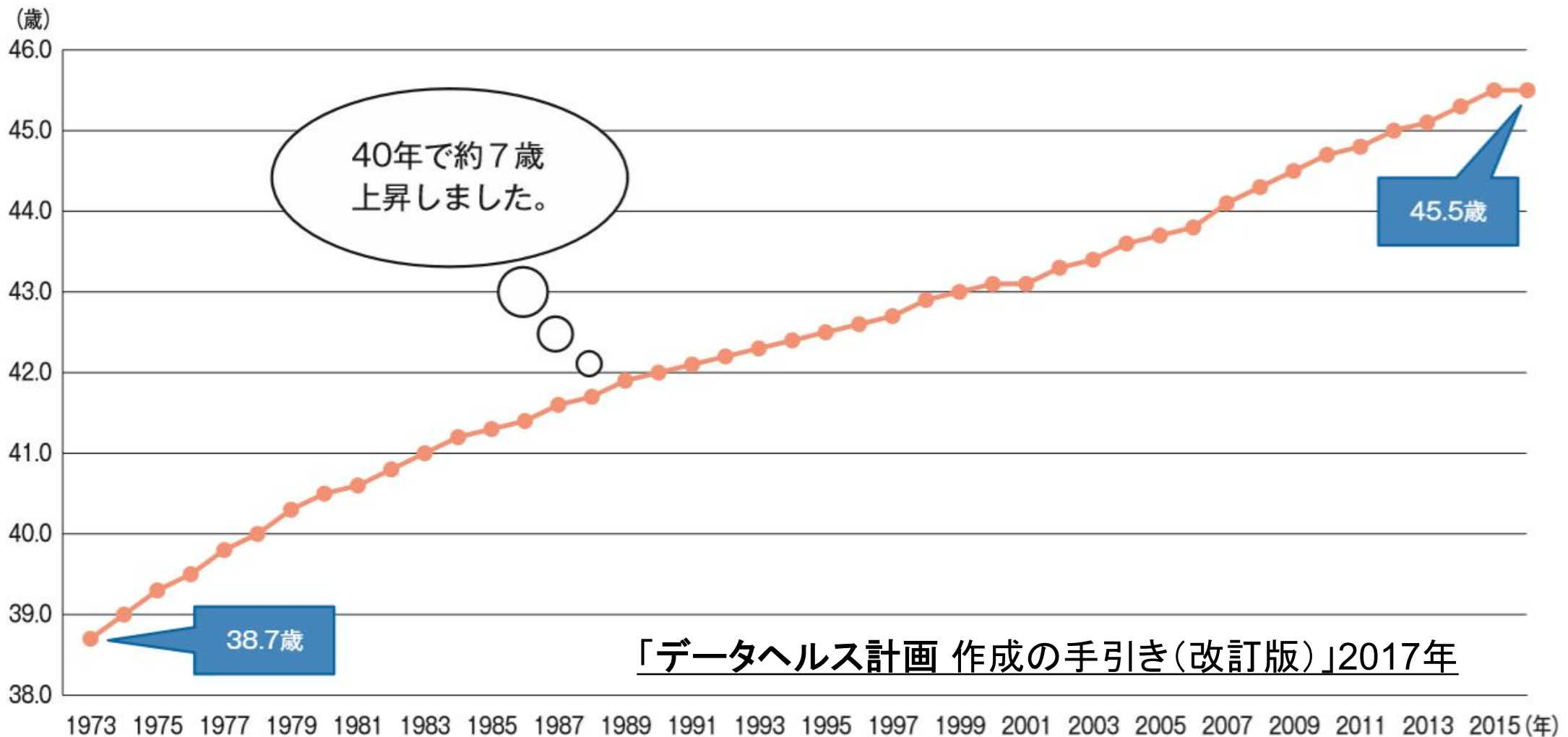
職場でみんなできり組もう！



(島内1987, 吉田・藤内1995を改編)

「健康経営」の理念が提唱された背景

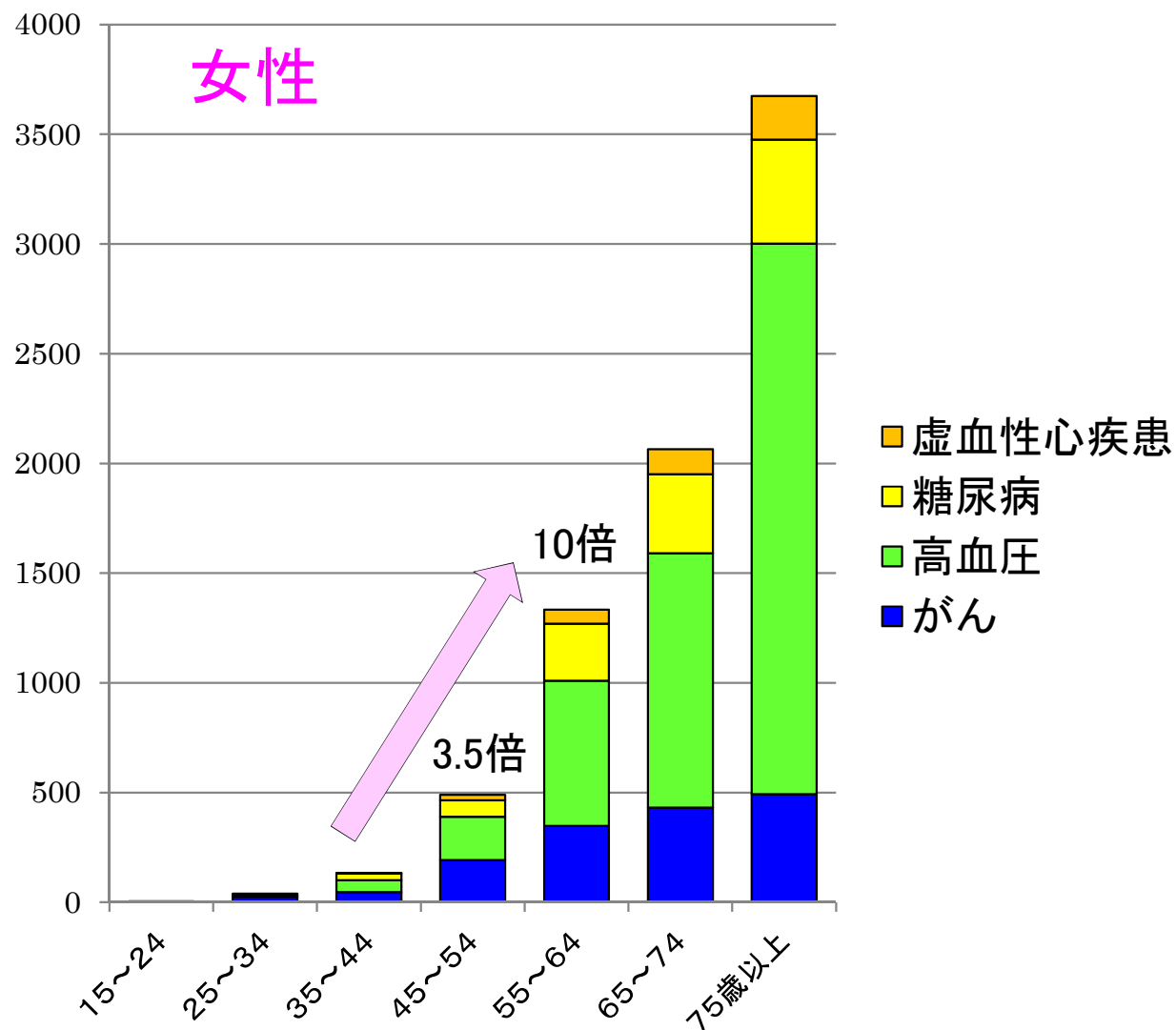
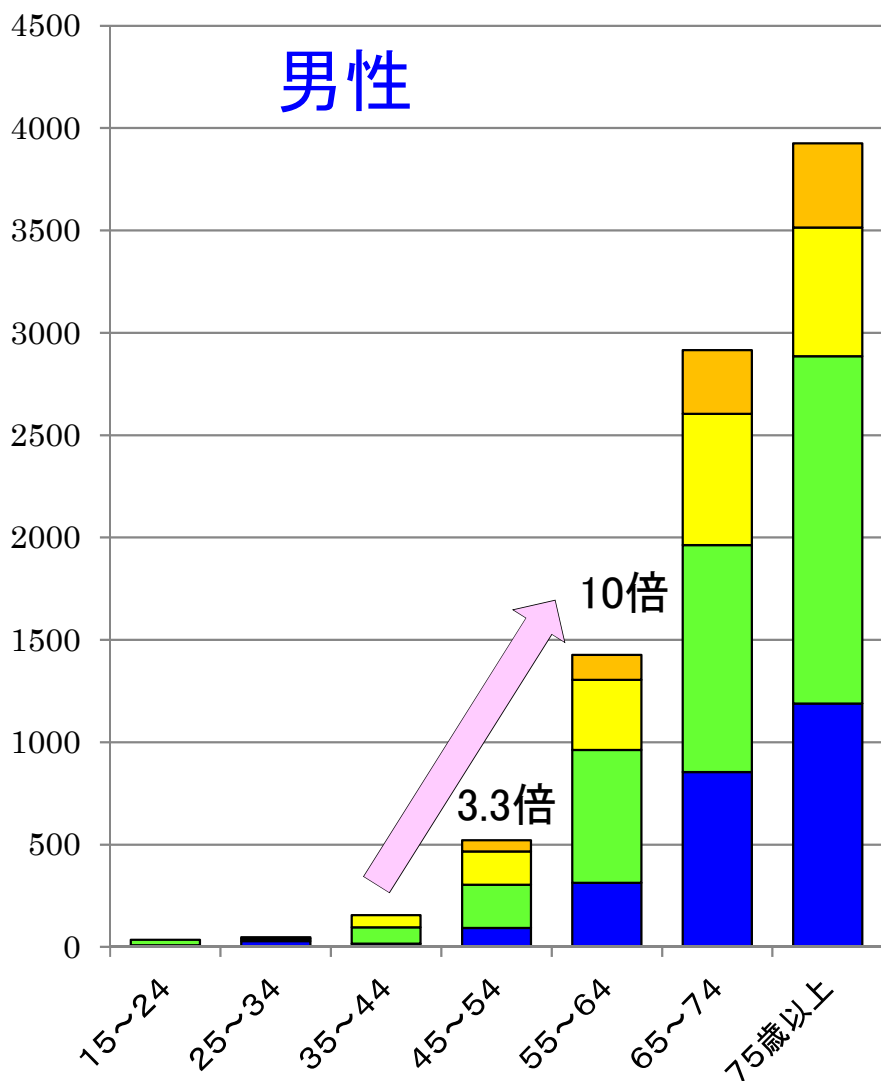
わが国の労働者の平均年齢が、この40年で7歳増加！



熟練の「技」を持つ従業員が健康上の理由で、仕事が続けられなくなり、生産性に影響を及ぼす事態に・・・ 中小企業ほど、深刻！

生活習慣病の受療率の推移

平成26年患者調査(大分県)



労働者の平均年齢が38.7歳から45.5歳になり、生活習慣病は倍増！
企業にとって、従業員の健康づくりが最優先課題になってきた！

健康経営の意義と効果

経営者にとっての価値

→ 企業活動へのプラス効果

- ・生産性の向上

熟練工など貴重な人材が働き続けられる

取り組みにより職員及び組織全体が活性化

- ・コスト削減

医療費の適正化 → 保険料の低下

- ・会社のブランドイメージの向上 経産省「ホワイト500」

資金調達, 人材確保に有利

従業員にとっての価値

→ 職場環境改善の実感

- ・食事や運動など健康に配慮した職場環境の実現

- ・適切な労働時間が実現される

- ・柔軟な働き方ができる(心身不調の際の対応が早い)

協会けんぽ大分支部の「一社一健康宣言」(H25年度～)

ステップ1

①健康宣言！

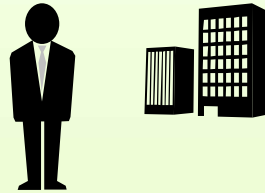


【企業】

<事業主>

ステップ2

【企業】



<事業主>

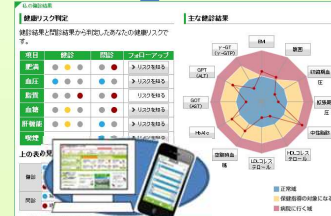
社内の健康増進



<従業員>



企業の健康リスクの「見える化」



健診結果の「見える化」

②見える化したデータ提供

【協会けんぽ】



ステップ3

【企業】



<事業主>

事例紹介

経営理念の浸透

③取組み促進の支援

【協会けんぽ】



私たちは、「社員一人一人が、心身ともに元気で働ける会社」＝健康企業を目指します。

健康推進企業 一社一健康宣言

社員の皆さんと取り組む

◆健康診断の実施

法令に従い、社員に対して定期健康診断を実施します。
 ・毎年、定期健診を受けましょう
 健康への第一歩は健診を受けることから始まります。毎年の健診の受診を促進していきます。

◆検査・治療を推奨

健診の結果等で、再検査や治療の必要性があった場合、医療機関への受診を推奨します。
 ・適切な指導をお願いします
 身体の状態を把握せず、医療機関への受診等、早期対応を実施していきます。

◆生活習慣改善応援

脳梗塞、脳卒中、糖尿病などにかからないように、協会けんぽと支援事業を行います。
 ・生活習慣を改善しましょう
 運動や食事の見直し、そして禁煙等、いつまでも健康で働けるよう自主的に、生活習慣を見直す取り組みを実施します。



Support by 全国健康保険協会大分支部

協会けんぽ大分支部との協働

大分県の課題

平成22年の健康寿命が男女とも全国で下位！ 青壮年期の健康づくりの推進が不可欠！

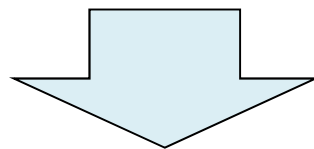
健康づくりのノウハウや人材はいるが、青壮年にアプローチできない！

協会けんぽの思い

「一社一健康宣言」した企業に対して十分な支援ができず、宣言をした企業のモチベーション低下が心配

青壮年にアプローチする場があるが、健康づくりのノウハウや人材が不足！

相互の強みを生かした連携



県商工労働部や九州経済産業局等との意見交換会

平成26年9月

- ◆ 「大分県の健康づくり推進に向けた連携に関する協定書」締結
- ◆ 健康経営事業所拡大事業の開始

→ 「一社一健康宣言」事業所を県に登録，県独自の要件で認定を行う

大分県における地域・職域連携の経過（2）

県の協議会

H26

年1回

商工労働部や九州
経済産業局等との
意見交換会

「健康経営」
の導入

協会けんぽと
協定を締結し、
県独自の登録・
認定制度

H27

県医師会
大分労働局
産業保健総合支援センター
産業保健師代表
協会けんぽ(3人) →
市町村保健師代表
産業医科大学
各保健所担当者

健康経営サポートブック

健康経営の啓発やセミナーの開催
健康寿命日本一おうえん企業
や商工会議所連合会との連携

WFunによる効果分析
(職員のパフォーマンス)

WFun (Work Functioning Impairment Scale)

健康経営優秀事業所の知事顕彰 (毎年5社)

年1回の開催

保健所, 市町村担当課
労働基準監督署
地域産業保健センター
協会けんぽ
商工会議所・商工会
健診センター

作業部会の設置
(年3回開催)

健康経営セミナーの開催
市町村, 商工会議所等と連携

健康課題の「見える化」
地域版サポートブックの作成等

事業所のニーズ調査

360件

750件

保健師による事業所訪問

事業所健康診断シートに
基づく健康づくりの支援

二次医療圏
の協議会

健康経営事業所の登録制度の開始

従業員の**健康**を支えたい事業所を応援!



「健康経営事業所」を 認定します

認定のための5つの要件

「社員の健康が気になるな・・・」
「会社で健康づくりに取り組みたい!」
「健康管理って何をしたら良いの?」

まずは**登録!**

次に**実践!**

めざせ**認定!**



- ① 健診受診率100%
- ② 事業主主導の健康づくり
- ③ 受動喫煙対策
- ④ 職員に健康情報を提供
- ⑤ 職場ぐるみの健康づくり

健康経営登録事業所の取り組みの実態

大分県独自の認定要件別の達成状況（H26年度実績報告）

① 健診及び有所見者への対応

・健康診断受診率及び健康診断の結果把握100%

54%

② 事業主による主導的な健康づくりの推進

・社内での呼び掛け や 事業所の健康リスク把握

98%

③ 受動喫煙防止対策

・事業所建物内禁煙 又は 敷地内禁煙の実施

79%

④ 健康情報の定期提供

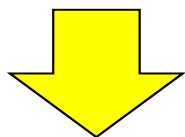
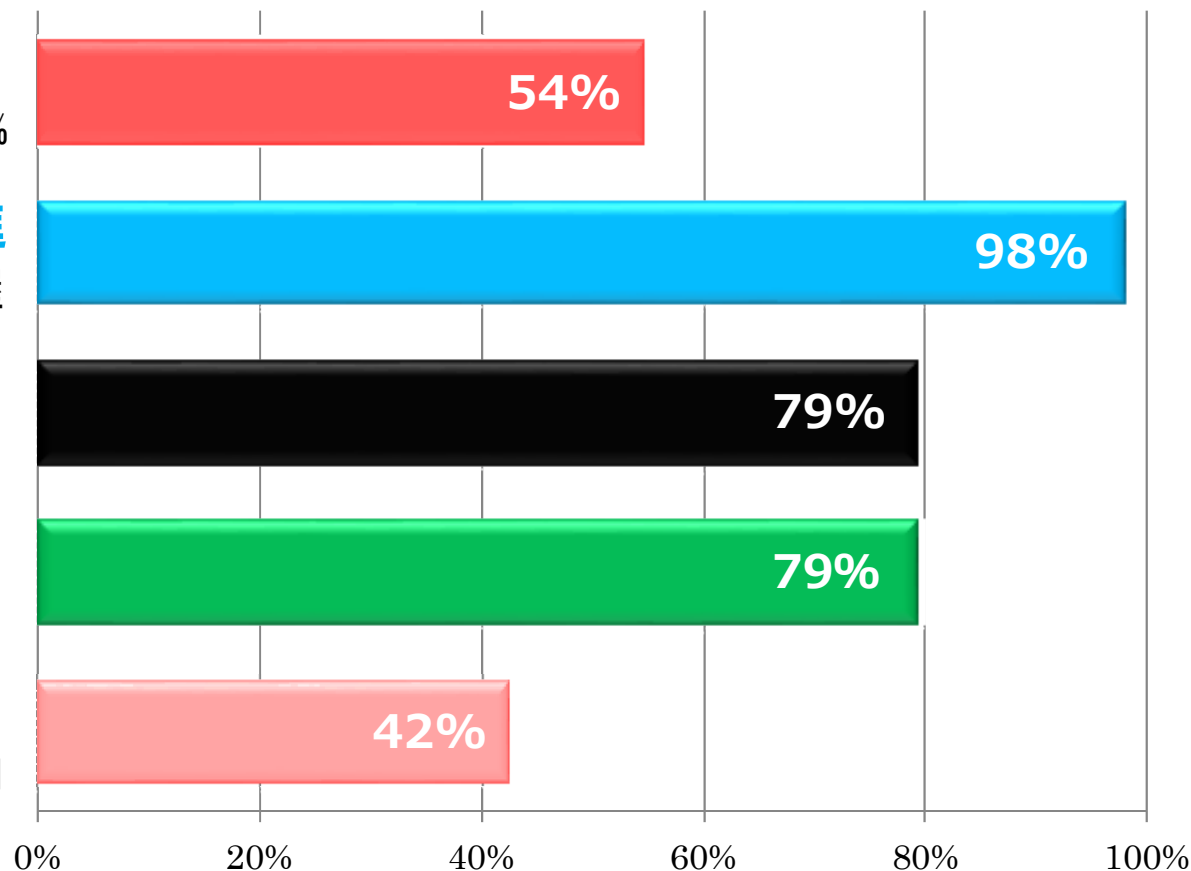
・最低月1回の健康情報の社員への提供

79%

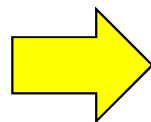
⑤ 事業所ぐるみの健康増進の取組

・健康イベントの開催 又は 社外イベントへの参加

42%



事業所ぐるみの健康増進の取組
がボトルネックになっていた！



県が主催する職場対抗の健康づくりイベント

- 歩いて健康企業 No.1決定戦(H26年度～)
 - 働き盛り健康見える化促進事業(H27～29年度)
- 活動量計「ホコタッチ」による生活歩行年齢

事業所における健康経営実践のための県の役割

①優れた取組の見える化

冊子化

優秀健康経営事業所の知事表彰
健康経営サポートニュース（月1回）



②県保健師等による事業所訪問

年間のべ**750**社（29年度）

取組① 社員一人一人が『健康』を意識して生涯元気に!!

健康診断の受診率は毎年100%で、結果については医師からの意見聴取を行い、受診勧奨や生活するうえで注意する点などを記載した手紙を本人に手渡すようにしています。特定保健指導の対象になった人については必ず指導を受けてもらうようにしています。

また、昨年度から努力義務となっているストレスチェックも実施しており、定年を迎えるまで、またはそれ以降も心身ともに元気な日々が過ごせるようサポートしています。



毎年恒例の敷地内でのお花見

③事業所における健康づくりイベントの提供

歩いて健康
No.1決定戦

1,934人（**226**チーム）参加（30年度）

④健康経営セミナーの開催（おうえん企業、商工会議所等との協働）



職場☆健康増進企画 おおいた健康応援キャンペーン

おおいた健康経営セミナー

115回 **4,149**人参加

⑤認定事業所へのインセンティブの付与

県の制度融資（働き方改革等推進特別融資）で運転資金を低利で融資
ハローワークの求人票に、健康経営認定事業所である旨の記載

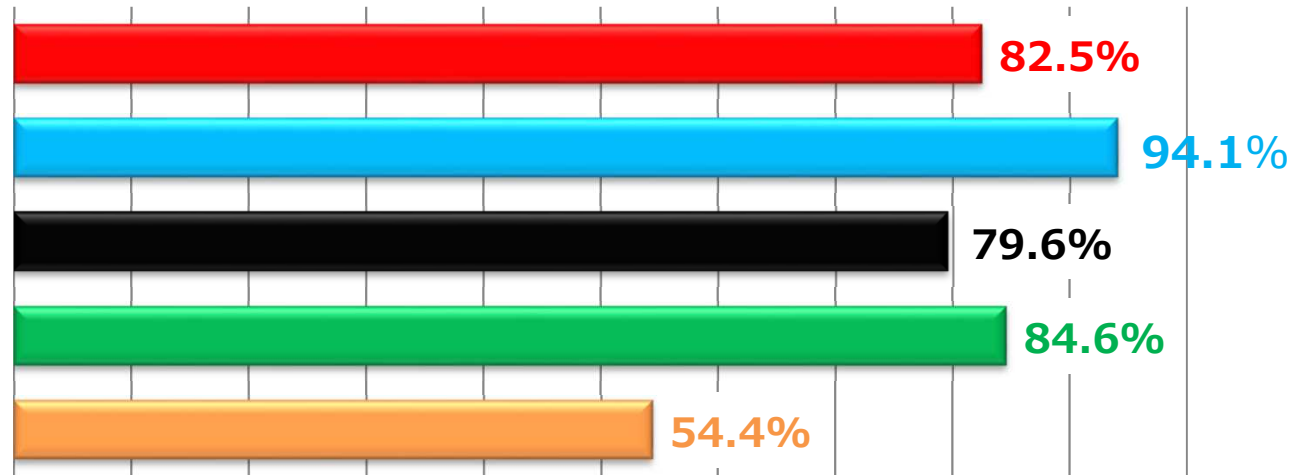
大分県における健康経営の推進（成果）

【登録】 **1,501**事業所 【認定】 **381**事業所（令和元年9月末）

認定要件別の達成状況（H30年度実績報告）

県独自の認定要件

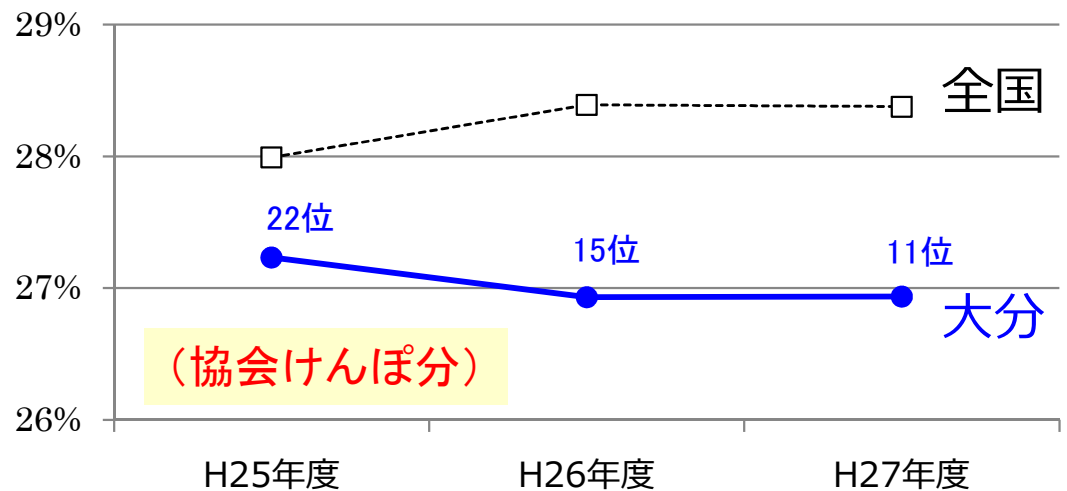
- ① 健診及び有所見者への対応
- ② 事業主による主導的な取組
- ③ 受動喫煙防止対策
- ④ 健康情報の定期提供
- ⑤ 事業所ぐるみの健康増進の取組



特定健診受診率（被保険者）の向上

	H25年度	H26年度	H27年度
健康経営登録事業所	74.6%	83.0%	86.1%
大分支部全体	62.2%	63.7%	65.5%

特定健診「メタボ+予備群」割合の減少



地域・職域連携の推進における「健康経営」導入の意義

- 「課題の共有」に終わらず，課題解決の方向性を明示
課題解決の方向として，「健康経営」という明確なビジョン
- 生産性の向上や経営の安定等，従業員の健康づくりに取り組む意義を事業主にアピールできた
事業主にとっても，地域・職域連携の意義を理解できた
- 「健康経営」の認定要件により，めざす姿を具体的に示した
何をすれば，「健康経営」なのかをイメージできた！
「認定」や知事表彰が，インセンティブにもなった！
- 「おうえん企業」など多様な主体との連携が可能になった
金融・保険会社と win-win の関係での協働ができた
- 登録事業所数や認定事業所数，認定要件の項目別の達成状況など，取組の成果が数値で見えることで，保健所職員や関係者のモチベーションにつながった

保健活動における「健康経営」導入の意義

- 集団に対する健康支援という保健師の「専門性」の発揮
事業所を訪問し、「事業所健康診断シート」に基づいて
職場の健康課題の解決を具体的に支援
- 職場におけるメンタルヘルスへの新たなアプローチ
プレゼンティズム（出勤はしているが、健康上の問題で
パフォーマンスが低下）の評価
- 商工労働部局など他部局との連携の推進
経産省が提唱する「健康経営」は商工労働部局の所管
- 多様な主体との協働による健康づくり
金融機関・保険会社と win-win の関係での協働
「健康」という価値を地域社会と企業が共有
Creating Shared Value（共通価値の創造）
- 健康づくりは、「コスト対策」から、「価値の創造」へ

地域・職域連携の推進における今後の課題とその対応

- 従業員の健康づくりに関心の薄い事業主へのアプローチ
 - 事業主に対して、取組の意義をアピールする
 - 「健康経営」による職員のパフォーマンス向上の検証
 - 大学や高校の就職担当者等求職側への説明会
- 職域における健康づくりを推進するためのリソースの不足
 - 地域産業保健センターやTHP指導者等の活用
 - 地域産業保健センターの利用 年間1,000件程度
 - 「健康経営推進員」(健康経営アドバイザー)の活用
 - 社会保険労務士, 中小企業診断士, 商工会議所の経営指導員, 金融・保険会社の職員を対象に養成
- 職場ぐるみの健康づくりを推進するためのツールの不足
 - ヘルスケアポイント等による無関心層へのアプローチ
 - 職場で楽しみながら, 健康づくりを継続する仕組みを

健康アプリ おおいた歩得(あるとっく)の特長

職場ぐるみの健康づくりをサポート

- ① 歩いてポイントをためる
- ② 健診受診でポイントをためる
- ③ 健康づくりイベント等に参加でポイントをためる
- ④ 職場でグループ設定
グループ間、グループ内で獲得ポイントを競う



3,000ポイントで、
『おおいた歩得カード』



協力店で特典をゲット
(現在, 346店舗)

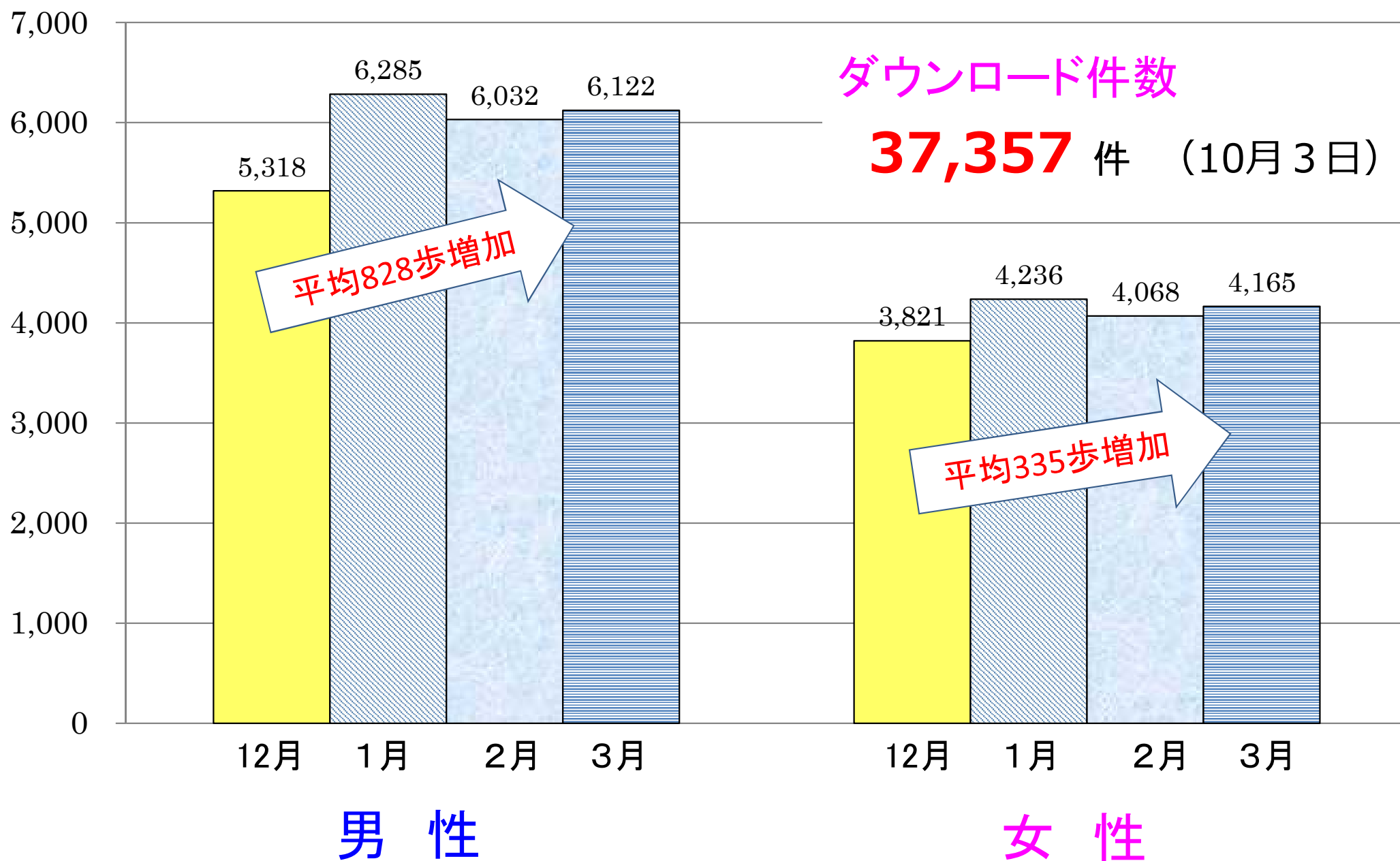
- ★ 飲食店でコーヒーサービス
- ★ 1000円以上購入で10%オフ
- ★ スポーツジムで無料体験

歩数がグラフ化される他、
健康情報を入力し、日々の
健康管理にも活用できる！

体重や血圧、健康状態などを
入力すると、日々の身体の変
化や体調をグラフ化して、体調
の変化を「見える化」



「おおいた歩得」における歩数変化



Take Home Message

- 都道府県担当者へ
まずは「協会けんぽ」と話をしてみよう
「健康経営」に取り組んで、困っていることを尋ねよう
- 保健所担当者へ ガイドライン44ページ参照
健康経営に取り組んでいる事業所を訪問してみる
どんな支援があったらいいのか、ヒアリングから
地域で、優れた取組を発表する機会を持つ
「健康経営事業所実践報告会」で好事例の横展開
- 協会けんぽの方へ
県庁の担当者と健康経営を進めるうえでの悩み事を
相談してみよう（早速、今日から相談をしてみよう）
- 労働局の方へ
「働き方改革」と「健康経営」を結び付けて！